



耳の聞こえない「まあちゃん」と いじめっ子の心を動かす
 おばあちゃんの心暖まるふれあいと家族愛を描く——!

★教育映画祭優秀作品賞受賞★

がんばれ

厚生省中央児童福祉審議会
 推薦文化財

文部科学省選定

まあちゃん

あたたかいなみだが
 ほほを
 つたいます。

日本PTA全国協議会推薦
 映倫青少年映画審議会推薦
 青少年育成国民会議推薦
 優秀映画鑑賞会推薦



原作 ■ 岸川悦子
ひくまの出版刊

まあちゃん
 熊淵卓

おばあちゃん
 櫻町弘子

お姉ちゃん
 竹内るみ子

お母さん
 吉本真由美

お父さん
 三波豊和

八百屋のおじさん
 オール巨人

園長先生
 長門裕之

監督 ■ 原田隆司

撮影 ■ 林健作

照明 ■ 山北一祝

編集 ■ 荒木健夫

記録 ■ 藤澤加奈子

録音 ■ 西村良

整音 ■ 浜口十四郎

音楽 ■ 森琢磨

脚本 ■ 谷口育代

プロデューサー ■ 八頭司重信

製作 ■ 八頭司享

協力/社団法人滋賀県ろうあ協会/社会福祉法人びわこ学園/JR西日本/関西医科大学附属洛西ニュータウン病院

制作協力/東映京都スタジオ/東映京都撮影所

制作/共和教育映画社

★教育映画祭優秀作品賞受賞★

がんばれ まあちゃん



監督 ■ 原田 隆司
 まあちゃん……………熊淵卓
 おばあちゃん……………櫻町弘子
 お姉ちゃん……………竹内るみ子
 お母さん……………吉本真由美
 お父さん……………三波豊和
 八百屋のおじさん……………オール巨人
 園長先生……………長門裕之
 製作 ■ 八頭司 享

販売価格 ⑬ ¥420,000 ① ¥73,500 (日本語字幕版・英語字幕版あり) DVD ¥73,500

生まれつき耳が聞こえなく、話もできない5歳のまあちゃんが、障害にぶつかりながら温かな家庭に見守られて成長していく姿を、姉・かよの目を通して描いています。



〈ストーリー〉

私は、上野かよ。小学校5年生。弟のまあちゃんと、お父さん、お母さん、おばあちゃんの5人家族です。まあちゃんは耳が聞こえないので、話すこともできません。それと、すこし知恵も遅れていますが、すごく元気な弟です。

まあちゃんは、家族で話し合った結果、施設に行くことになりました。家から遠くて通えないので、一人で寮に入ると聞いたとき、胸がきゅうと締めつけられるようでした。

「まあちゃんが弟でなかったら、もっと自由に遊べるし、男の子に、いじめられる事もないし……」そんな事を少しでも思った事があったので、私のせいじゃないか、と思ったんです。でも、おばあちゃんが教えてくれました。施設では専門の先生もいるし、ボランティアの人達も居て、口を大きく開けて声を出す訓練とか、手話を教えてくれたり字を書くことも出来るようになるし、お友達もいっぱい出来るから、まあちゃんの将来のためだって……

まあちゃんが居なくなると、家の中がガランとして寂しくなりました。そんなある日、学校の帰り道で、公民館に行くおばあちゃんと会いました。まあちゃんと話が

したくって、手話を習っていたそうです。

おばあちゃんの大好きな手話は『頑張る』で、にぎり拳を作って、胸の前から下に、二度おしだします。

そんなおばあちゃんが、病気で倒れました。

動くことも、話すことも出来なくなりました。

休みになって、まあちゃんが帰ってきましたが、おばあちゃんの姿を見て、目にいっぱい涙を溜めて身体をゆすります。でも、反応はありません。

それから、まあちゃんは、おばあちゃんに付きっきりで看病しました。

施設に帰る日も、おばあちゃんの側をなかなか離れません。そして、涙をいっぱい溜めて「まあちゃん 行ってきます」と手話で話します。……その時、おばあちゃんが手を、ゆっくりと握って押しだしました。

おばあちゃん、分かったのです。『がんばる』の手話をしているのです。

私も、お父さんも、お母さんも、思わず『がんばる』の手話をしていました。

まあちゃんも、『がんばる』と、小さな拳をしっかりと握り、下に押し出して、力強く応えています。

おばあちゃんの目には、いっぱい涙がたまっていました。

そして、まあちゃんは、元気よく家を飛び出して行きました。

上映時間48分



共和教育映画社

〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路6-4-111
延原倉庫 淡路物流センター

TEL 06-6322-1800 FAX 06-6322-2255

URL <http://www.kyowafilm.com> Email avl@kyowafilm.com